

書評 新刊 紹介



淡水藻類写真集 第20巻
山岸高旺・秋山 優編 内田老鶴圃刊
100 ページ
定価 7,000 円+税 1998

淡水藻類写真集の第20巻が出た。第1巻の刊行が1984年であるので、14年の歳月をかけて20巻が完結したことになる。1ページ(図版)に1種収録され、1巻が100図版より成り、20巻で合計2,000図版、2,000種の淡水藻の顕微鏡写真図を掲載した写真集の刊行である。

この写真集1~20巻は淡水藻類の種の同定を主な目的として作られた本で、1ページ一杯の図版には、まず藻類1種の全体像の顕微鏡写真と分類上の特徴となる部分の拡大写真が示され、次いで必要に応じて電子顕微鏡写真や線画が添えられる。図の説明は英文で、種の記述は和文と英文でされている。収録された淡水藻類2,000種は293属に及び、分類群ごとの内訳は次のようである。藍藻綱41属74種、紅藻綱11属78種、黄色鞭毛藻綱(黄金色藻綱)15属75種、黄緑藻綱15属48種、渦鞭毛藻綱7属18種、緑虫藻綱12属320種、緑藻綱ジグネマ目(ホシミドロ目)41属974種、ジグネマ目以外150属410種、車軸藻綱1属3種。この数字は先に同じ出版社から出た日本淡水藻図鑑(1977)の197属2,308種に近く、わが国の湖沼、河川、池、水田等に普通に見られる淡水藻のほとんどを網羅している。淡水藻類の同定は車軸藻類やマリモ、カワノリなどを除くと、顕微鏡で観察して行うものがほとんどであり、写真は顕微鏡下に見えたそのままを写し出すので藻類の実態をとらえるのに効果的である。利用者はこの写真集1~20巻により、これまで以上にはかどった、そして、より確信のもてる淡水藻の同定が可能と思う。私はこの分野の初心者の方々と淡水藻の同定にこの写真集シリーズを使っているが、上述の日本淡水藻図鑑(1977)と併用することで一層の効果を挙げている。

2,000種にも上る多くの淡水藻類の顕微鏡写真を収録した同定用の本の出版は世界でも例を見ない。吉田忠生博士の新日本海藻誌の刊行と前後して山岸・秋山両博士による淡水藻類写真集全20巻の完結刊行を見た

1998年は日本藻学界にとって記念すべき年となった。編集に当たられた山岸、秋山両博士の努力を多とするとともに、採算を度外視して刊行に踏み切られたという出版社内田老鶴圃に敬意を表したい。

最近、藻類の多様性が認識され、進化・系統の観点から藻類に注目する生物学者が増えてきた。また地球環境温暖化対策、汚水処理対策等の環境問題、あるいは有用物質や生理活性物質の探索等との関連から藻類を研究しようとする人達も増えている。藻類研究の専門家だけでなく、広く藻類に興味をもち野外で実際に採集して藻類を同定し、研究したい人々にはぜひ座右に置きたい写真集である。ちなみに、既に刊行の本シリーズの各巻の価格は、1・2巻 各4,000円+税、3~10巻 各5,000円+税、11~19巻 各7,000円+税である。

なお、珪藻類はこの写真集に含まれていない。珪藻類の同定用の本は近く同じ出版社から刊行予定のことである。

千原光雄(千葉県立中央博物館)



淡水藻類写真集ガイドブックの表紙

淡水藻類写真集ガイドブック
山岸高旺著 内田老鶴圃刊
144 ページ
定価 3,800 円＋税 1998

「淡水藻類写真集 1～20 巻」(1984～1998) は、図版ができた種類の順に 1 ページに 1 種を次々と並べたルーブリック形式の構成であり、後に図版の右上に記述のコード番号の順に並べ変えることで、各図版は綱、目、科の分類順に整理されるようになっていく。この「写真集」シリーズの難点の一つは、編集上の都合からと思われるが、収録された種類が所属する綱、目、科、属などがどのような特徴をもつのか、そしてその種や属は分類階級の上位の科や目などの中でどのようにして分類されているのか、検索表はどのようなものであるのかなどの解説が無いことである。このため、藻類の分類体系や各分類群の知識が十分でない人にとっては本シリーズの利用は必ずしも容易ではない。そこで、より多くの人々が容易に「写真集」を利用できるようにと編者の一人山岸博士が書き下ろされたのが本ガイドブックである。「写真集」の使い方や学名の解説等の導入部があり、その後 6 章「写真による淡水藻類 12 綱の代表属」、7 章「体制と生育状況による代表的な属の分類」、8 章「写真集」に収録した属の写真と解説が続く。巻末に「収録の属・種の学名と和名(学

名の仮名読み)」が記される。6 章では 12 綱の代表的な属を 113 枚の写真図(少数は線画)で示し、7 章では、体制と生育状況に基づいて淡水藻類を 1 游泳性 a 被殻のない単細胞性、b 被殻をもつ単細胞性、c 群体性；2 浮游性 a 単細胞性、b 群体性；3 付着性 a 単細胞性、b 群体性；4 糸状性；5 紐状性；6 葉状性；7 囊状性・管状性に区分し、それぞれのグループの代表的な属を 94 枚の写真で紹介している。多様な体制をもち、異質な系統群から構成される淡水藻類の属や種の文字による検索は複雑で、理解も容易でない。そこで著者は上記のような写真で見ると検索を考えたという。淡水藻の分類系を理解し、属の特徴を知り、写真集の利用を容易にするために、写真図による検索を繰り返し見ると著者は奨めている。

なお、本書も含めて、「写真集」の和名は目、科、属のいずれも学名の仮名読みで、普通に使われる和名は時にカッコに入れられている程度である。初心者のためにはもっと和名が類繁に出てきた方が良かったと思う。次もマイナーなことであるが、綱名や目名も黄色鞭毛藻類(黄金色藻類)やジグネマ目(ホシミドロ目)といったように、普通に使われている別名や和名をカッコに記すと初心者には有難かった。それはともかく、本ガイドブックは「写真集」と共に座右に備える便利な本である。

千原光雄(千葉県立中央博物館)

新刊書

- ICONOGRAPHIA DIATOMOLOGICA: Annotated Diatom Micrographs. Ed. by Horst Lange Bertalot. Volume 06: Phytogeography - Diversity - Taxonomy. Lange - Bertalot, Horst and S. I. Genkal: Diatomeen aus Sibirien, I: Inseln im Arktischen Ozean (Yugorsky - Shar Strait) / Diatoms from Siberia, I: Islands in the Arctic Ocean (Yugorsky - Shar Strait). 1998. approximately 1000 micrographs on 77 plates. Approx. 280 p. Hardcover. (ISBN3-87429-406-4) US \$113.00
- VERMA, B. N. (ED.): ADVANCES IN PHYCOLOGY. 1998. ILLUSTR. 392p.: US \$56.00 Twentyfive review articles on morphology, physiology, and ecology of algae. Includes modern lines of research, e.g. cytotaxonomy, allelopathy, microbiological biotechnology.
- ANAND, N. : INDIAN FRESHWATER MICROALGAE. 1998, 94 p., illustrated. US \$22.50
- HOLGER, T: THE DIATOM FLORA OF THE LAPTEV SEA (ARCTIC OCEAN). 170 p. 5 fig., 1 tab, 40 plates. (Bibliotheca Diatomologica 40) ISBN: 3-443-57031-3 about \$72.00
- MIKLAUSEN, A.J. THE BROWN ALGAL ORIGIN OF LAND PLANTS AND THE ALGAL ORIGIN OF LIFE ON EARTH AND IN THE UNIVERSE. 1998. 199 p., 20 pages of B&W photos. hardcover. US \$60.00